

SORA

web magazine 2019.oct. vol.122

Travel

Bali

Indonesia

MAP
CLICK!

Photo & Text : Yasuaki Kagii

可愛いキュートな ゴマ粒の眼を持つ モウミウシに会いたい!

友人のSNSの投稿で、ミナミアオモウミウシの写真を見て、その色彩の大胆さとカラフルさに目を奪われ、ゴマ粒のような可愛い二つの目に見つめられると、他の海の生き物とはまた違った親近感を覚えた。アニメのキャラクターのようなまるで絵に描いたようなキュートさ。調べて

みると、バリのトランベンで撮影されたとのこと。日本国内でも、その目がキュートなモウミウシは見られるけど、バリのモウミウシは少し個体が大きいため撮影しやすいなどという耳よりなアドバイスを頼りにして、私はバリのトランベンに飛んだ!

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2019
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



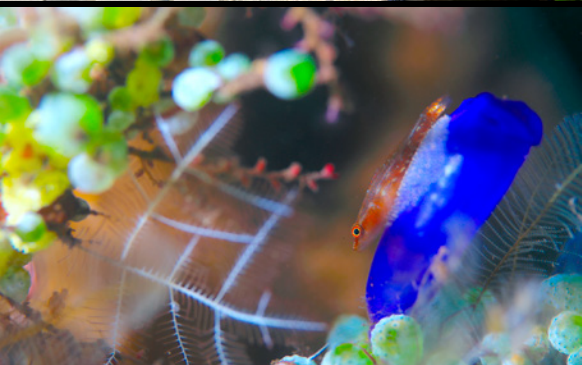
1本目は、沈船のポイントに向かう。実は、到着した前の日に豪雨があり、川の水が大量に海に流れ込んだことで、透明度が随分と落ちているとのこと。そんな中でも、一番影響が少ないと思われる沈船を選択。今回はウミウシをメインとしたマクロの撮影をお願いしているので、沈船の脇の砂地をメインに潜ってもらった。ガイドのアワクんが、いくつもの小さいウミウシを見せてくれる。海底の環境が黒い砂地ということで、そこに生息する生き物は、白い砂地の生き物よりも体色が濃く、カラフルである。撮影のプロが言うのもなんだけど、1本目のダイビングは、撮影に集中したというよりは、全体の環境の様子を見たいので、このトランペンの海の特徴を捉えることに集中した。そんな中でもヘアリーオクトパスなどの珍しい生き物は、しっかりとアワクんに見せてもらった。



Bali
Indonesia
インドネシア・バリ



2本目のダイビングはパラダイス前へ。想定していた場所は、イベントが何かで潜水できないということで、思い切ってリゾート前に潜ってみた。茶色く濁った水も、水深10mほど行くと、視界は開けた。水深22mほどにあるクリーニングステーションにまず行き、お魚たちにご挨拶。いつもなら、ここで十分な時間を撮影に費やすのだけど、今回の目的は、ウミウシ……。アワくんが見せてくれるウミウシを丁寧に撮影していく。途中、シーズンでないと云われた、青いカイメンにハゼが産卵しているシーンを幸運にも撮影できた。その後、カイメンの上で見つけたイリオモテミノウミウシをRGBBlueのライトを駆使して、撮影。少し海のイメージではないものを撮影できた。





Bali

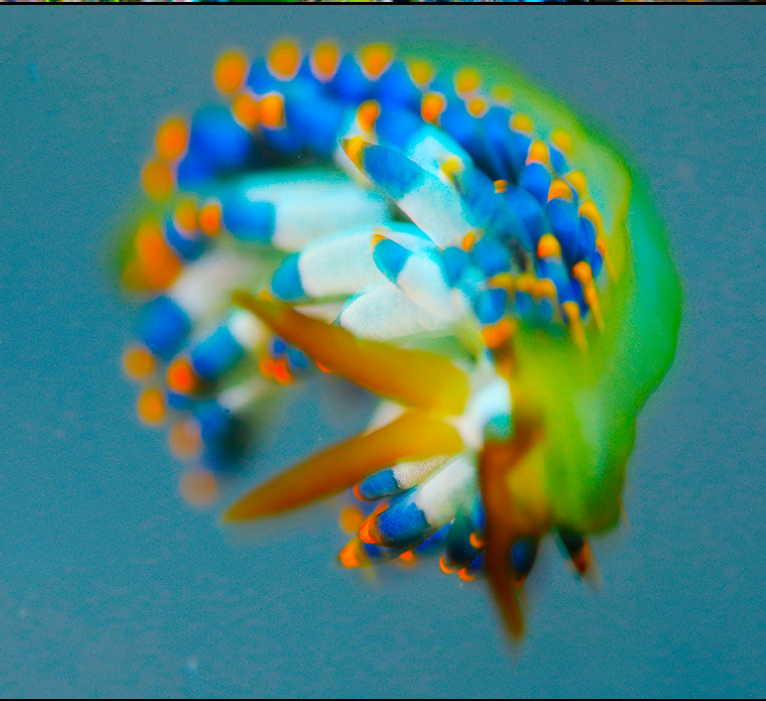
Indonesia

インドネシア・バリ



モウミウシ現る!

3本目のダイビングは、リゾートから随分と離れたバトゥリンキッドへ。ここは雨水の影響もなく、透明度が安定していた。波の影響も少なく、楽チンにエントリー。エントリーして、すぐに小さな白いウミウシを発見。うねりはあったので、そのうねりに身を任せながら、揺れるウミウシを撮影。不思議な感じで仕上がれ!と念じながら……(笑)。その後、少し沖合に進むと、ガイドさんが、フトガヤミノウミウシを見せてくれる。これまでに見たことはあったけど、うまく撮影できていなかったの、少し時間をかけて撮影する。最後、ストロボの光を嫌がったのか?急に浮いて移動を始めた。申し訳なかったな……と思いつつも、水中に浮き上がった姿も撮影し続けた……。そして目的の水深23mまで。そこには、白いギャガがたくさん群生していて、そこにイリオモテミノウミウシが付いているはずだった。小さな個体はくっ付いているのだけど、大きな個体は海底に身を潜めていた。それでも、その美しさに感動しながら、撮影する。そして、ガイドのアウくんが「こっち!こっち!」と呼んでくれる。行ってみると憧れのモウミウシが2個いる!「これは頑張らなきゃ!」と撮影を進める。小さな小さな個体。そしてこれまた小さなお目目……。可愛いけど、じっくり向き合えないと良き写真にはできない、手強い存在。水深は18mほどで時間的な制限もあったけど、納得するまで撮影。それから浮上を開始しようとする、足元にツノザヤウミウシがいたので、またまた撮影……(あまり集中できず……。)。そして、深度を上げていく途中で、トメソデエビやカエルアンコウモドキを披露してもらった。しかし、心はモウミウシを引きずっていた……。





Bali

Indonesia

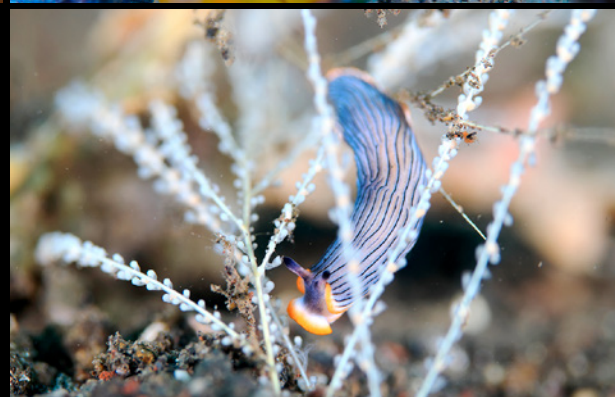
インドネシア・バリ



素敵なシャッターチャンスを見逃し、心がバラバラに……

2日目の朝も、前日の雨のお陰で、リゾートから近くの海域が土砂の影響で濁っているので、安全パイと考えて、バトゥリンキッドへ。エントリーしてすぐに交差をするウミウシやホシゾラウミウシを発見。するとガイドさんが、白く細いサンゴに絡むオトメウミウシを見せてくれる。絵になるようで、ならないような……（笑）。そして、クチナシイロウミウシを発見するが、触手が一つなかったので、背中のエラだけを撮影……（笑）。また小枝に絡まる2匹のウミウシを撮影し、ガイドさんに呼ばれて、少しタイミングを置いていったら、葉の上で、ちょうど良い感じていたモウミウシ（*costasiella* sp）が、ピントを合わせている間に動き出していたので、絶好のシャッターチャンスを失った……（それでも可愛く、撮影できましたが……）。これからガイドさんに呼ばれたら、素直に早めに行こうと心に誓う。そして、これまたあまり見たことのない DOTO sp. のウミウシを教えてくれるも、先ほどの、モウミウシ（*costasiella* sp）の失敗が心に残り、正直、クリエイティブなイメージが遮断されたまま……。次もガヤに登るフトガヤミノウミウシを見せてもらっても……。すぐに撮影したいイメージが浮かばない……。今回は、可愛いモウミウシを撮影することが大きな目的だったので、なかなか心の傷は深い（笑）。そんな時に限って、ガイドのアワくんは、これでもか!と良いウミウシを見せてくれる。最後のゴマフビロードウミウシもう少しうまく撮影できたのではないかと……。と思ってしまう。

余談。エキジツとして、失敗したと思ったモウミウシ（*costasiella* sp）の写真が、タイミングが遅れたことで、これまでにない可愛い感じになっているので、一気にテンションが上がった!



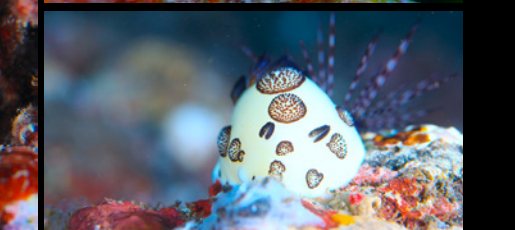
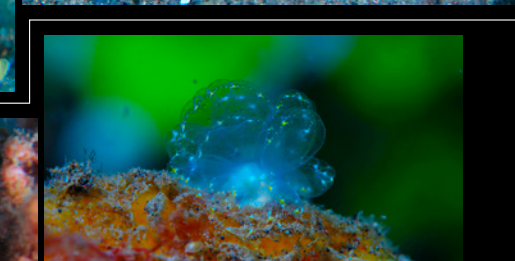
強敵、ミヤビウロコウミウシ現る！

2本目も同じバトゥリンキッドへ。今度は、昨日のコースへ行き、まず水深22mのガヤ畑に行く。目的は、イリオモテミノウミウシ。ちょうど卵サイズほどの大きなサイズが大きな白いガヤに乗っていたので、ちょうど良いと思ったが、外国人ダイバーが撮影していたので、少し深度を落として、小さなイリオモテミノウミウシを撮影。ずっと待っていても、その外国人ダイバーはそこを退こうとせずに、今度は、同じグループで立ち替り入れ替わりで、その大きなイリオモテミノウミウシを占領し始めた。減圧ギリギリまで待っても、その感じは変わらず、残念だけどゆっくりと浮上した。そのあとは、キヌハダイボウミウシなど撮影。またテンションが下がったのか、その後は、ウミウシではなく、カエルアンコウやニシキフウライウオなどがよく目に入り、それを撮影した。

Bali

Indonesia

インドネシア・バリ



3本目は、バトゥリンキッドとは逆の方向に向かう。とにかく土砂の影響がない場所へ……。ポイントはシデム。玉砂利で足をすくわれそうになるエントリー口。エントリーは簡単だけど、エキジットは足が玉砂利のにめり込み、なかなか体力が必要なポイント(笑)。もちろんガイドさんが助けてくれるので問題ないが、まず、オレンジ色のカイメンについたセンチロウミウシを撮影。ゆっくり撮影していると、ガイドさんは20m付近で何か探している。そして見せてくれたのが、ミヤビウロコウミウシ (cyerce elegans)。よくもこんな透明なウミウシを見つけれる、と本当に感心。そして、パツと見ではどこに触手があるのか……わからない……(笑)。時間をかけてゆっくり撮影。その後、外套幕を張った海やニシキフウライウオ、カエルアンコウ、再びキヌハダイボウミウシなど撮影。そして、水深5mほどに戻ってくるとクチナシロウミウシの交接やブチウミウシがいて、浅い水深でゆっくりとウミウシの撮影を楽しむことができた。



ムラストーという魔法のポイント！

3日目は、ムラストーに3ダイブ潜った。目的の一つは、doto greenamyeri という名のウミウシで、ドラムのような形が特徴的。茶色のマーブル模様は、お菓子の様なキュートさを思い出させる。また外国のフォト派ダイバーからゴージャスウミウシと呼ばれ、人気がとても高い。このムラストーというポイントは、黒砂のなだらかな傾斜の砂地で、一見すると生き物があまり居そうもない感じの環境。所謂、マックダイブと言われるようなマクロのポイントで、レンベフログフィッシュやイバラダツのような珍しい生き物も見つかる。しかし、なんといってもやはり人気はウミウシで、先述のゴージャスウミウシを始め、ミナミアオモウミウシやホホベニモウミウシ (costasiella kuroshimae) などが多く見つかり大人気。ヨーロッパや他のアジアからのダイバーも多くこのポイントに潜りにやってくる。本格的な一眼レフの水中カメラを携えている方も多く、そのほとんどの方が、ゴージャスウミウシやモウミウシを目的にやって来ているとのこと。私も魅了された一人だが、あんなに小さな生き物なのに、こんなに世界から集客力?(笑)があるのだから驚き、また嬉しく思った。まず、そのゴージャスウミウシだが、水深20mほどのガヤに生息。ちょうど、砂地から浮き、白いガヤを絡めながら、撮影するのにとても良い環境にいてくれる。その複雑な形は、どこから撮影したら良いのかな?と嬉しい悩みを与えてくれ、ライトの位置を変えたりして、じっくりと楽しむことができた。しかし、水深が20mほどと少し深いので、そのダイブは、基本的にゴージャスウミウシを撮影するダイブとなった(もっとあっさり撮影すれば、他にも見れる余裕があるのですが……笑)。



Bali

Indonesia

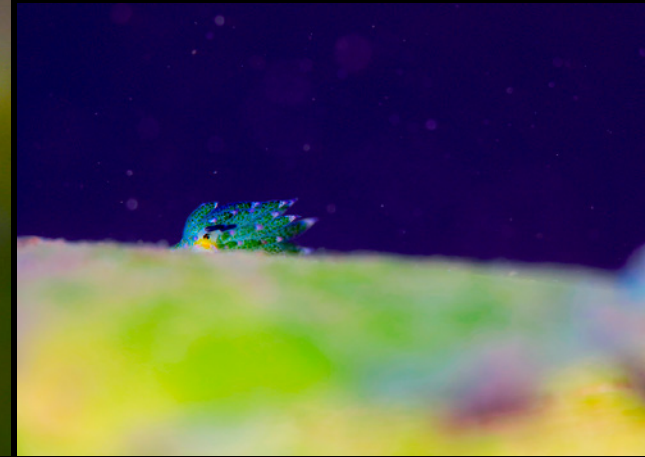
インドネシア・バリ



Bali

Indonesia

インドネシア・バリ



ミナミアオモウミウシと ホホベニモウミウシ(*costasiella kuroshimae*)

そして、もう2ダイブは、ミナミアオモウミウシとホホベニモウミウシ (*costasiella kuroshimae*) を狙った。その時の環境によるのかも知れないが、両ウミウシとも、水深が23m付近にいて、これまた少し深度ある場所で撮影となった。なので、ナイトロックスがオススメ。ミナミアオモウミウシは意外と大きな個体で、小指の爪サイズから親指の爪サイズ。どこに眼があるのか? はっきりとわかるくらいの大きさで、撮影もスムーズに進む。緑色の海藻の上、ストロボは発光するたび、背面のモニターは、色鮮やかな青と黄色の姿態が浮かび上がった。そして、ホホベニモウミウシ (*costasiella kuroshimae*) も同じ海藻の上に何個体も乗っていたりとなかなか撮影のしがいがある。よく見ると眼がどこにあるのか? 確認でき、少しでもピン트가ずれると台無しになるので、じっくりと撮影に向き合った。これも時期によると思うが、ちょうどホホベニモウミウシ (*costasiella kuroshimae*) を撮影している時、水底から冷水塊が来て、透明度が悪くなったと思ったら、それが終わると勢いのあるダウンカレントが始まり、周囲の泥が舞い上がって視界を奪った。目の前にこんなに可愛い生き物がいるのに、「何なのこの仕打ち!」と思い、じっと堪えていると、次第に透明度がクリアになり、再度撮影を続けた。撮影を終えてみて、感想は「こんなに可愛い生き物はいないかも…… (笑)」。ダウンカレントが強くなった始めの頃に、その流れに耐えるホホベニモウミウシ (*costasiella kuroshimae*) を撮影したが、その姿が何ともキュートだった。無事に撮影を終え、浅場でフリンデエビなどを見せてもらうが、いつものような情熱はなく、心は、ミナミアオモウミウシとホホベニモウミウシ (*costasiella kuroshimae*) でいっぱいだった。

Bali

Indonesia

インドネシア・バリ



トランベンの魅力

バリ島で一番有名なダイビングポイント。バリ島の北東部に位置し、空港周辺の町から車で約3時間。ドロップオフから沈船までの海岸線2キロ、短い海岸線でたくさんの生き物が生息し、ダイバーを楽しませる。特徴は、ビーチから簡単に行ける沈船（全長120mのアメリカの商船）があったり、アジ玉が見られたりするポイントがあること。ビーチダイブということで、体験ダイバーから、ビギナー、フォト派ダイバーまで気軽にダイビングを楽しめるのが嬉しい。更に大きな特徴の一つとして、南の島だが、アグン山（3142m）の噴火の影響で、海底は黒砂が続き、通常よりも体色がカラフルで色鮮やかな生き物が多い。また、多くのダイバーで賑わうダイビングポイントの海岸線でよく目にするのが、頭の上にタンクなどを載せて歩く現地の女性たち。彼らは、地元の漁師の奥様などで、私たちダイバーの機材を運ぶことが生業の一つとなっている（機材を運んでくれるのは、女性ばかりでなく男性もいる）。リゾートから近くのダイビングポイントへ向かう時、また、車でポイントまで移動してエントリー口まで機材を運んでくれる。そのようなサービスは受けなくても良いと思われるかもしれないが、基本的に彼らのチップはダイビング代に含まれているので、そのサービスを甘受して良いと思う。少し遠い距離を頭にタンクをひよいと載せて歩く姿は、バリのダイビングエリアの長くからの慣習で、海外に来たと少し実感させてくれる。



今回お世話になった ダイブリゾート・パラダイスパームビーチバンガロー

日本人のエミコさんが経営する簡素なダイバーズの宿。ダイブサイトがある海岸線に面し、緑多い敷地内に、パリの伝統的な様式のような建物が並ぶ。1階、2階とある客室はシンプルだが広く、荷物の多いダイバーには便利。シャワートイレ、エアコンは完備しているが、シャンプーやボディソープ、歯ブラシなどは常備されていないので、用意しておくといけない。荷物の多いダイバーには1階の客室が人気のようだが、眺めの良い2階の客室も良いと思った（ただし階段は急）。海に面した場所には、ダイビングセンターとレストラン、ダイビングの講習でも使用で

きるプールがある。シーサイドレストランでは、インドネシア料理を始め、ピザやパスタなどの洋食、カツカレーやそばなどの日本食もある。ミネラルウォーターやソフトドリンク、そしてビールなどはあるが、ビール以外のワインやアラックなどの他のお酒は販売していない。朝食込みの滞在スタイルの場合、朝はパンケーキトーストを選択、そこにフルーツの盛り合わせとコーヒーまたは紅茶がつく。リゾート内には、数匹の犬が飼われている。またリゾートから少し歩いた場所には、コンビニエンスストアもある。

Bali

Indonesia

インドネシア・バリ

併設のダイビングセンター

インドネシア人のアワくんがメインガイド。アワくんは真面目な性格で、生き物を探す目持ち、とても良い感じでガイドをしてくれた。ガイドの範囲は、トランベン、アメット、パダンバイで、朝7時から潜水が可能。例えば、午前2ダイブ、午後1ダイブなどとオーダーができる（または午前1ダイブ、午後1ダイブ）。早朝、または、ナイトダイビングもリクエストベースで行う。1名のガイドに最大4名までのグループで潜る。潜水時間を60分。ナイトロックスも完備。レンタル器材もあるが、トランベンのエントリーエキジットは砂利や少し大きめの丸い石を敷き詰めた場所になるために、ブーツがあった方が断然良い。

